

令和6年度
三鷹市立小・中一貫教育校

全7学園の評価・検証



令和7年6月
三鷹市教育委員会

令和6年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進

○ コミュニティ・スクールの運営について

- 【例】・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容
 - ・ 地域との効果的な連携に係る内容
 - (関係機関との連携、教育ボランティア等)

○ 小・中一貫教育校としての教育活動について

- 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容(学園研究等)
 - ・ 小学校間での授業交流
 - ・ 乗り入れ授業
 - ・ 児童・生徒の交流活動

(2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

○(知) 確かな学力について

- 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上
 - ・ 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの推進
 - ・ ICT活用
 - ・ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等

○(徳) 豊かな人間性について

- 【例】・ 考え議論する道徳
 - ・ いじめの早期発見・早期解決
 - ・ 情報モラル教育
 - ・ 生活指導等

○(体) 健康・体力について

- 【例】・ 基本的生活習慣の確立
 - ・ 体力向上、健康にかかわる内容(食育)等

(3) 特色ある教育活動について

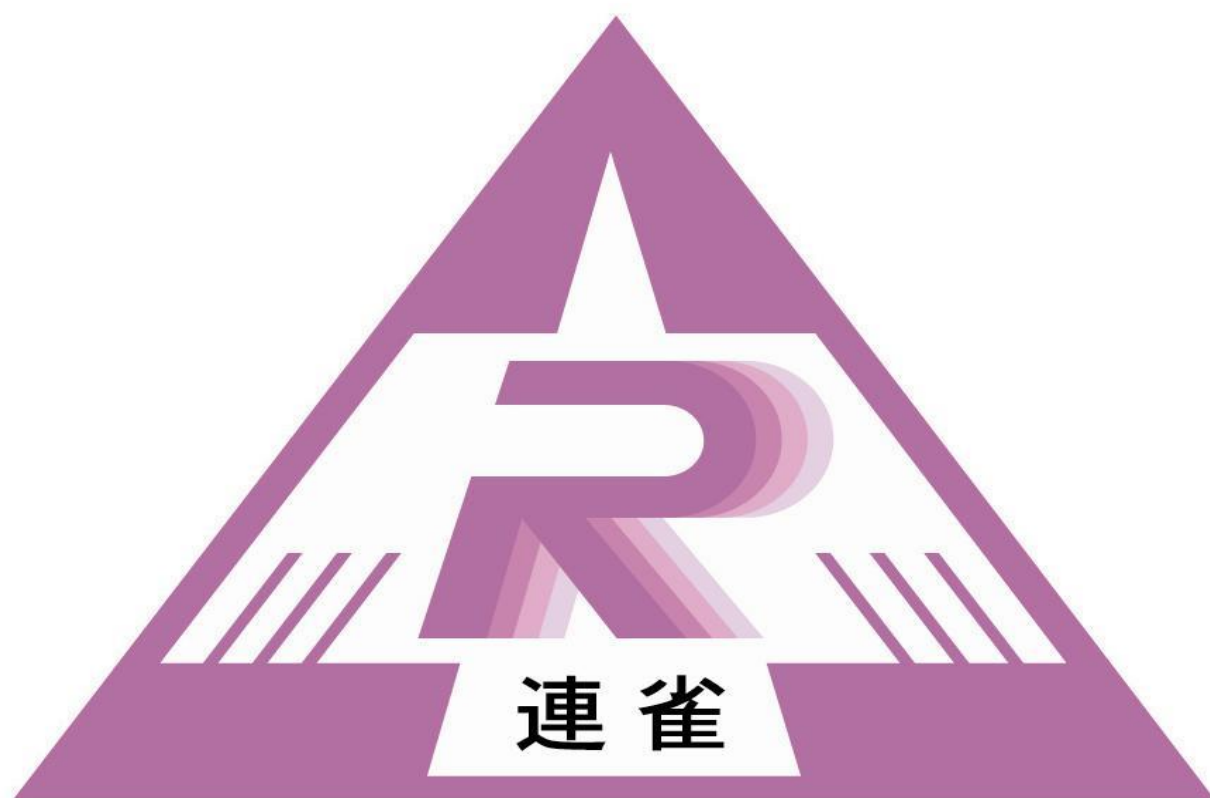
- 【例】・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育
 - ・ オリンピック・パラリンピックレガシー教育等

喫緊の課題

○ 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革について

- 【例】・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定
 - ・ 教員のタイムマネジメント力の向上
 - ・ 人財の効果的活用
 - ・ 地域行事等への参加の工夫等
 - ・ 部活動の適正化

連雀学園



令和6年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	コミュニティ・スクール委員会や連雀ジョイナスについて、管理職のサポートの下、会長・副会長、部会長を中心とした運営を推進する。		
取組	(1)連雀ジョイナスの自主事業「笑顔満祭」の実践 (2)連雀学びのスタンダードに変わる新たな指針の作成 (3)学園「15の取り組み」の評価及び新たな実施方策の設定		
成果		課題	改善策
・「笑顔満祭」については、参加団体や連雀ジョイナス会員のアンケート結果は、ほぼ100%満足したという回答であった。次年度以降も継続して開催したい内容である。 ・新たな指針について、オンライン熟議を実施し、子どもたちから直接意見を聞くことができた。		・「笑顔満祭」の日程を、年度当初の児童会(クラブ活動)実施日までに決定しておく必要がある。そのことにより、児童会(クラブ活動)において、舞台・展示のいずれかを目標に活動ができる。 ・新たな指針の作成に向けて、次年度の進行管理を適切に行う必要がある。	・今年度内に日程を決定し、年度当初に学校・地域関係団体に周知するとともに、連雀ジョイナス内の役割分担も年度内に決めておく。 ・新たな指針の作成に向け、今年度内に次年度のスケジュールを決定し、管理職が中心となり適切に進行管理を行う。

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	コロナ禍を経て、再度、「三鷹市立学校 小・中一貫教育の推進に係る実施方策」を共通理解し実践する。		
取組	5年生での自然教室を経験した令和8年度からの自然教室や、中学校3年生の卒業時期から逆算した交流活動の再構築		
成果		課題	改善策
・交流活動については、小学4年生から中学3年生までの交流活動が整理され、計画通り実施できた。児童・生徒アンケートは90%を超える肯定的意見だった。		・乗り入れ授業の後補充教員が見つからず、乗り入れ授業の実施が一部計画通りにできなかった。	・乗り入れ授業の後補充教員を探すのが困難である状況がある。引き続き、後補充教員を探すとともに、各学校の実態に合わせて効果的に実施できるよう計画を立てる。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	各教科等において、改訂した「三鷹市立小・中一貫教育校 小・中一貫カリキュラム」を活用して、個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現し、子どもの資質・能力を育成する。		
取組	(1)学園研究の推進 (2)みたか地域未来塾などの補習教室の実施		
成果		課題	改善策
・年間を通して小学2年生から中学3年生までの算数・数学習熟度別学習が実施できた。 ・児童・生徒一人ひとりの実態に応じた学習を進めることができた。またみたか地域未来塾やスマイルラボなどによる補充学習の実施も軌道に乗ってきた。		・一部の児童・生徒の学力の定着が十分とはいえない。	・小学1年生からの算数習熟度別学習を実施するとともに、みたか地域未来塾やスマイルラボだけでなく、各学年での補習授業も実施する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	多様な立場や考えを想像したり、理解しようとしたりする態度や他者とコミュニケーションを図りながら協働する力を育てる。		
取組	(1)学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有 (2)学園(小学校)合同でのプラン研修等、実践につながる研修の実施		
成果		課題	改善策
・今まで継続して招聘している選手のほかに、ラグビー選手、ハンドボール選手、体操選手を招聘することができた。また、和太鼓演奏者やアナウンサーなど新たな分野の方を招聘することもできた。多様な職種の方々をゲストティーチャーとして招聘することにより、子どもたちの満足度を高めることができた。		・ハイパーQUで測れない自己肯定感などを可視化すること。	・学園・学校で、児童・生徒の満足度や充実度など学校風土を図れるような新たな指標の導入を検討する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	基本的生活習慣を確立するとともに、体力や健康づくりに自ら取り組む。		
取組	(1)学園合同あるいは連携した運動の強化週間や意識付けを高める取り組みの再開 (2)体力調査の結果を生かした授業改善の継続と、家庭への周知の方法の工夫		
成果		課題	改善策
・健康フォーラムの実施による地域・保護者への啓発ができた。 ・30分休みや六スポ等を通して、運動が好きという児童の微増と体力調査結果の向上が図られた。		・健康・運動・食育の3分科会を機能させ、より効果的な研究を推進する。	・3分科会と学年をミックスして、動きやすい組織を編成し研究を深めるとともに、令和8年2月14日の研究発表会にてその成果を発表する。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	地域と協働した教育活動をより一層進める。		
取組	(1)各校の特色を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育の実践 (2)放課後教室開放等や地域人財を生かした部活動などの実施		
成果		課題	改善策
・夏休み中の「探究学習」については、2学期当初の学校公開で保護者や地域に発表し、成果を見てもらうことができた。また様々な学習・行事で子ども主体の教育活動を行えた。		・給食時に子ども意見を聴取するだけでなく、年間を通して子どもたちの意見を聴取し、子どもたちの意見も取り入れた教育活動となるよう工夫をする。	・学校内に意見箱を設置し、子どもたちがいつでも自分の思いや考えを発信できる場を設定する。また、年に2回の教員と子どもとの面談時において、直接的に一人ひとりの子どもたちから意見を聞くようにする。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	教員の働き方を見直し、教員が健康で充実して働き続けることができるようにする。		
取組	①SC推進員、校内の専門スタッフや校務支援システムの活用、効率的な会議運営 ②部活動指導員や地域人財を生かした部活動の実施		
成果		課題	改善策
・時間外勤務が45時間を超える割合は10%を少し超えるくらいまで減少した。 ・常に教職員の健康状態を気にかけてことで、病気等で休職する教職員がいなかった。一人ひとりの職務や責任を明確にすることで、働き甲斐は高まった。		・一人ひとりの職務や責任を明確にすることで、働き甲斐は高まったが、仕事が特定の個人に集まることもあった。	・役割分担の明確化と仕事を調整した分掌組織を編成する。

にしみたか学園



にしみたか学園

令和6年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	・スクールコミュニティの活性化 ・あささんネットの運営推進 ・地域部活動の充実		
取組	・あささんネット主催の地域部活動運営を推進する ・あささんネット主催の地域交流(焚火)をスクールコミュニティの活性化につなげる ・英検、漢検、ICUによる英検模試(地域団体・人財の活用)		
成果		課題	改善策
・あささんネットの焚火交流は地域・保護者の交流となり、教員も参加ができた事が良かった。「職業人」の取組は、地域・保護者の交流にもつながった。皆が集まれる機会は新規CS委員の確保にもつながる。 ・二中カフェは定期開催ができた。ICUの学生とのつながりも子どもたちの身近なキャリアのロールモデルとして良い成果が出ている。		・二中カフェの参加人数をどのように拡大していくか。 ・地域・保護者・教員が交流できる場を増やしていきたい。	・二中カフェの取組としては、子どものニーズを調べ、臨機応変に対応していく。 ・展覧会＋焚火のように、学校行事の中に交流の場をうまく取り入れていく。

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	・学園研究(特別活動:学級活動1)話し合い活動の系統的な取組の推進 ・小・小、小・中の交流 ・乗り入れ授業 ・児童生徒の交流活動		
取組	・学園研究(特別活動:学級活動1)9年間を見通した話し合い活動の系統的な取組を推進する。 ・小・小、小・中の交流の推進。特に小学校自然教室の交流検討。子供の意見聴取の拡大。 ・小・中一貫コーディネーターを中心に、乗り入れ授業を推進していく。 ・児童生徒の交流活動の推進。子どもの意見を取組に活かしていく。		
成果		課題	改善策
・子ども主体の話し合い活動を9年間の系統性・連続性を見据えて取り組むことができた。 ・小・小、小・中の子どもたちの交流は、子どもたちの学園生としての意識や一体感を高めてきている。そのため、小→中の壁は下がっていると感じる。		・学園研究は十分な時間が取れないことなどもあり、三校の教員がすべて主体的に取り組んだ研究とは言い難い部分があった。 ・乗り入れ授業は、意図や目的を十分に共有できていないこと、連絡調整が不十分だったことで十分な成果が出ていない。	・学園研究は、教師自体が主体的に取り組めるよう、部会など組織の工夫や教員一人ひとりからアイデアを吸い上げるなど行っていく。 ・乗り入れ授業は、年度当初に全教員で意図や目的を共有すること、不意な予定変更にも臨機応変に対応できるように共通理解することなどを図っていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	・主体的・対話的で深い学びの推進 ・個別最適な学び、協働的な学びの推進(ICT活用、授業のUD化等) ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学びのスタンダード」の活用による授業力の向上		
取組	・主体的な学びを意識した授業改善を行う。授業評価を授業改善に活用していく。 ・ICT活用、授業のUD化等により、授業の個別最適化を図る。また話し合い活動を基盤として協働的な学びを活性化する。 ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学びのスタンダード」を活用し、主体的に学ぶ子どもを育成していく。		
成果		課題	改善策
・主体的な学びの実現に向けて、各校で校内研やICT活用、学び合い、教材開発などをすすめ、授業改善に取り組むことができた。 ・みたか地域未来塾、補習教室など学習の場を設定することや、宿題のあり方を見直し主体的な学習につなげていくことなどに取り組むことができた。		・今後も主体的な学びの実現に向け、授業改善をすすめていく必要がある。 ・授業や取組改善については、意図や目的などを保護者・地域にも丁寧に説明をしていく必要がある。	・学園研究、校内研究を中心に教員同士がお互いの授業を参観するなど校内で学び合う姿勢を維持するとともに、授業改善の取組の必要性を共通理解し、保護者や地域にも説明を続けていく。 ・教師自身が主体的に学ぶ姿勢を大切にしていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	・話し合い活動の推進 ・いじめの早期発見・早期解決 ・デジタルシティズンシップ教育の推進 ・非認知能力の育成		
取組	・学園研究で話し合い活動を推進する中で、授業等での話し合い活動を推進し、子どもの主体性を育成する。 ・ふれあい月間、Q.U.面談等で子ども間のトラブルの早期発見・対応を行っていく。 ・デジタルシティズンシップ教育を推進し、「より良い大人」になるための自律心を育成していく。 ・学級、委員会、クラブ、部活動、行事等で、非認知能力の育成を意識して行っていく。		
成果		課題	改善策
・行事に向けての取組は、主体性やよりよい人間関係の構築につながっていた。また、児童・生徒の達成感にもつながっていた。 ・校内通級教室との連携、子どもの居場所づくりについては、それぞれの取組を着実にすすめることができた。 ・チャレンジする子どもを大人全体で応援できるようになってきている。		・子どもが目標設定を行う機会が多いが、自分の思いや願いを書きづらい子が出てくる可能性がある。 ・子どもたちは、「自分は周りを応援している」と感じているが、「自分が応援されている」と実感している子はやや少ないようである。	・子どもたちが考えた、個に応じた目標を前向きに認めること、応援していくことができるよう改善を図る。 ・応援の量だけではなく、伝わる応援、役に立つ後押しについても意識できるよう工夫していく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	・体力の向上 ・基本的生活習慣の確立 ・食育の推進		
取組	・各校の実態に合わせた取組による体力の向上を図る。 ・基本的生活習慣に関わる取組を行う。(各学年の保健指導、薬物乱用防止教室、ネットモラル教室など) ・食育リーダーを中心に、各校で食育を推進する。(自らの食を考える、食に対する知識や選択する判断力の育成)		
成果		課題	改善策
・体力向上のための行事を活用したことで、体力向上の効果が少しずつ出ている。また、小学校の放課後遊びの拡充は評価できる。 ・各校の食育の取組は、子どもの食への意識向上につながった。		・数値を見て焦って体力向上を謳うことに疑問がある。またどこまで学校が担うべきものなのか検証が必要である。 ・体力向上に向けた活動の際には、気温や場所の確保などの課題がある。 ・「朝食を食べる」や「スマホの使い方」など、健康教育も子どもたちが自分事として考えていけるような工夫が必要。	・昨今の気候変動を鑑みながら、児童の実態や気候の状態に気を配りつつ体力向上の取組を続けていく。 ・運動をすることだけにとらわれず、運動に親しむことに着目しながら取組を検討していく。 ・食育を含めた健康教育に引き続き取り組んでいく。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進 ・自ら考え行動し、未来を切り開いていける子どもの育成 ・子どもの居場所づくり		
取組	・まちづくりプランナー、職業人の話を聞く、職場体験等を地域と協力して進めていく。 ・児童・生徒代表者会議を中心に、子どもの話し合いを行い、その意見を交流・地域ボランティアに活かしていく。 ・地域団体、地域部活動、PTAによる子どもの居場所づくりを充実させる。(ダンス・お茶クラブ、放課後子ども教室等)		
成果		課題	改善策
・子どもが中心となった活動を取り入れることで子どもの主体性と実践力が高まった。 ・地域人財を生かしたキャリア・アントレプレナーシップ教育の継続ができた。 ・子どもの居場所づくりとして、小学校の放課後子ども教室、小・中学校のみたか地域未来塾、別室指導や個別指導による効果があった。		・子どもの居場所づくりの別室指導、個別指導については学校差はあるが、活動場所の確保に課題がある。 ・それぞれの学校の個別の取組について、内容の工夫や周知を図ることが必要である。	・児童・生徒の意見を学校や地域に還元できるようにすることは一概には難しい部分もあるが、子どものアイデアを大事にしながら取組を推進していく。 ・SNS講座、通級卒業生説明会等、効果が見込まれる個別の取組については、内容の工夫を行い、全体への周知を図る。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・退勤目標時間の設定、ノー残業デー、等の設定 ・教員のタイムマネジメント能力の向上 ・人財の効果的活用		
取組	・退勤目標時間、定時退勤日、長期休業中の閉庁日の設定、部活動の活動日数制限等の取組の継続、男性の育業取得推進。 ・勤務時間の管理、各種休暇の周知、年次有給休暇取得の促進。 ・外部人財のリスト化。各種支援員・エデュケーションアシスタントの活用促進。		
成果		課題	改善策
・会議資料のペーパーレス、事前提示、学校スタッフの効果的な活用、意識改革などの成果で、少しずつ残業は減ってきている。 ・職員のチームワークの良さが働きやすさにつながっている。		・全体の働き方改革は進んでいるが、多忙感を解消できるところまでは至っていない。 ・臨時的任用教員のなり手不足が課題である。 ・基本的にオーバーワークなのではないか。教員が担うべき仕事と、担った方がよい仕事、担わなくてもよい仕事と精査をしていく必要がある。	・わかりやすい数値に目が行きがちだが、それが本質ではない。働き甲斐も意識していく。 ・今までの慣例を意識するより、長続きできる内容、長く続けられる仕事のボリュームを意識して精選を行う。 ・自分たちの学校の課題と、学校全体を取り巻く課題とは分けて考えていく。

三鷹の森学園



令和6年度 三鷹の森の評価・検証 結果報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。		
取組	地域学校協働活動を推進する団体を立ち上げ、学校を核とした地域づくりを推進するために、コミュニティ・スクール委員の学校参観月間を年2回実施し、実際の学校教育を参観していただく中で、地域学校協働活動の取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。		
成果		課題	改善策
・年度初めに、地域学校協働本部を設置し、スクール・コミュニティづくりへの第一歩を踏み出すことができた。 ・コロナ禍の終了を受け、今年新設した評価指標で、多くのCS委員に学校を参観していただき学園運営に役立てることができた。		・より多くのCS委員の方に直接学校を参観していただくとともに、より適切な学園・学校評価の実施、PDCAサイクルによる学園・学校運営の改善を図るために、評価指標についてもより適切なものに改善する必要がある。	・集中してCS委員が学校参観を行うCS学校参観月間を引き続き実施するとともに、その他の学校公開や学校行事等についても積極的に周知・案内する。 ・重点目標やその取組、項目の趣旨を踏まえ、CSの運営をより広い視野から振り返ることのできる評価指標を検討する。

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。		
取組	9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、小・中学校や教科等のつながりを生かし、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指す実践研究に取り組む。		
成果		課題	改善策
・学園の全ての教員が「つながり」を視点として学園研究に取り組むことができた。学習指導案の形式を小・中学校で統一し、授業研究を行ったため、研究協議もしやすく、研究内容が深まった。		・「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての議論を引き続き深めていく必要がある。 ・「つながり」の3つの観点「小・中」「教科」「地域」のうち、「地域」の取組についての発信が十分ではなかった。	・「主体的に学習に取り組む態度」の在り方について研究部を中心に更に検討を進める。 ・「小・中」「教科」だけでなく、「地域」とのつながりについても適切に価値付け、発信できるよう意識的に取り組んでいくようにする。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。		
取組	各種学力調査のデータ等から個々の児童・生徒の課題を明らかにするとともに、1人1台学習用タブレット端末や学習支援ツール等の活用により、児童・生徒が自らの学習を計画的に進められるようにする。		
成果		課題	改善策
・各種学力調査のデータ等を生かし、学習用タブレット端末やネットワーク環境を活用して、児童・生徒が学習を計画的に進める取組を実践できた。		・各種学力調査のデータ等から明らかになった課題が、個別最適な学びや協働的な学びにつながっているか、検証する必要がある。 ・各教科等の学習が効果的に実施されているか、指導と評価の面からの検証が必要である。	・児童・生徒が教師とともに学習課題を作っていく機会を増やし、個別最適な学びや協働的な学びを探究していく。 ・学習用タブレット端末の効果的な活用方法も含め、教科等のねらいを踏まえた指導と評価の一体化について、更に研究していく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。		
取組	「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。		
成果		課題	改善策
・同年齢、異年齢集団での活動を通じて、自己有用感や、他者への共感力、協調性が高まった。		・持続的な人間関係の中でのいじめの根本的な解決が難しいケースがあり、継続して指導中のものもある。	・学級が児童・生徒にとって安心、安全な場であるようにするために、引続きいじめ対策委員会での情報共有や、保護者に対して定期的な状況報告をしたり、保護者からのフィードバックや提案を聞いたりする場を設け、家庭との連携を深める機会とする。 ・地域との連携も強化し、いじめに関する啓発活動や情報共有をしていく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。		
取組	学園の共通課題である「体力・運動能力の向上」の実現に向けて中学校保健体育科教員の小学校への乗り入れ授業を活用するとともに、児童・生徒の課題に応じた「一校一取組」「一学級一実践」を進める。		
成果	課題	改善策	
・教科担任制による体育の授業改善を図りながら、児童・生徒の体力や運動能力の向上につなげることができた。	・児童・生徒一人一人の更なる体力や運動能力の向上を図るためには、体育の時間の充実にとどまるのではなく、運動の日常化への取組を工夫する必要がある。	・各校において、休み時間等を活用した体力向上タイムの設定や、運動についての興味・関心を高めるようなゲストティーチャーを招いての取組の設定などを充実させる。	

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成		
取組	学校ホームページや学校だより等を活用し適切に教育情報の発信に努める。また、開かれた教育課程に基づき、SC推進員を活用するなど、地域人財や学校周辺の教育資源を活用した教育活動を行う。		
成果	課題	改善策	
・ゲストティーチャーを招聘した授業や、学園サポーターに活躍の場を積極的に取り入れた。 ・各校、予定通り地域人財を生かした授業づくりを実施することができた。 ・地域人財との関わりの機会を設け教育活動を行うことができた。	・地域と協働した授業づくりをすすめるために、更に地域人財の活躍の場を計画するとともに、新たな地域人財の発掘等が必要である。 ・学園サポーターの活躍の機会も更に多く設定し、生徒の学習機会を更に豊かにしていきたい。	・各校の教育課程に則り、新たな地域人財、学園サポーターとの関わりを意図的・計画的に取り組んでいくようにする。 ・各校の児童・生徒の実態に合わせ、児童・生徒、教員の希望を取り入れて地域人財の活躍の機会を設定、開拓していくようにする。	

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。		
取組	オンラインと対面それぞれの利点を生かしたメリハリのある学園会議・研究会の運営や、SC推進員・SSSなどのスタッフの活躍による業務の改善に取り組むとともに、学園の諸事業についても学園目標に照らして重点化を図ることにより充実と合理化・スリム化を両立する。		
成果	課題	改善策	
・学校閉庁日、定時退勤日を設定したことで、在校時間の短縮を実現できた。 ・オンライン会議の実施により小・中連携をスムーズかつ効果的に運営できた。 ・SC推進員を中心に各種検定やみたか地域未来塾の運営を進めたことで、業務の負担軽減になった。 ・教員全員の勤務時間を確認し、個別に声かけを行うことで改善に努めた。 ・中学校では、部活動顧問を複数人にすることで、顧問同士で調整し部活動を円滑に進めることができた。	・在校等時間が長い職員が固定化している。 ・業務量ではなく、業務の進め方を改善するための指導や研修が必要である。 ・行事と授業の準備が並行するため、年間を通して業務量が多く、行事を適正規模で実施する必要がある。 ・部活動については、活動時間や回数が多くなっていることや、教員の休憩時間や勤務外時間に行われている課題がある。	・メンター制を充実させ、教科や分掌間の連携・指導を強化し、在校等時間の短縮を実現する。 ・行事を適正規模で実施や見直しを行い、教員の負担を軽減し、多忙感の解消を実現する。 ・保護者・生徒への配布資料や職員会議資料等、ICTを活用して効率化を図る。 ・部活動ガイドラインの見直しや、下校時刻の変更等による活動の適正規模化を進める。	

三鷹中央学園



令和6年度 三鷹中央学園の評価・検証 結果報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	スクール・コミュニティを目指した更なる協議と支援の充実		
取組	①「中央学園スマイルアクション！」の周知と一人一人が自分事として活用できる具体的な取組 ②地域学校協働本部も視野に入れた学園一体感のある更なる充実を図る防災教育の実践		
成果		課題	改善策
・特命担当校長を任命し、具体的な取組の推進を図り、キャリアノートや面談と連動するなどし、「中央学園スマイルアクション！」の具現化が進展できた。		・保護者、地域等、大人の働きかけを具体化するための方策が必要である。 ・スクール・コミュニティの発展を目指し、地域ぐるみで学園生の資質・能力の育成を図る取組の中に、地域と学校が協働できるよう計画的なアプローチが必要である。	・来年度から本格開催する「三鷹中央学園防災フェスティバル」を軸として、保護者、地域が協働する中で、学園生の資質・能力の育成について取り上げ、広報等の活動を通して、学校・保護者・地域全体での取り組みを活性化させる。

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	学園生一人一人の自立した学びの確立		
取組	11月29日の学園研究発表会に向けて、保護者、地域と連携した各校の校内研究の充実		
成果		課題	改善策
・各校の2年間に渡る校内研究の充実を図り、学習ボランティア等の協力による授業改善に取り組むことができた。 ・各校の校内研究及び学園研究の取り組みにより、学園生の自立した学びにおける資質・能力の育成を図ることができた。		・大人の学力論の転換が一番の課題であり、学園生が予測困難な時代を創造的にたくましく生き抜くために必要な学力について、CS委員会を核として理解を図っていくこと。	・自立した学びに必要な資質・能力やそれを育む授業、家庭学習等について、CS委員会での熟議、各校の保護者等での意見交換など、具体的なアプローチを検討する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力の育成		
取組	ICTを活用した更なる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		
成果		課題	改善策
・3校ともにICTを有効活用した授業改善を図ることができた。 ・紙だけでなくICTも活用した学習方略の選択や児童、生徒同士の必然的な協働から互いの考えを尊重し、思考を広げ深める資質・能力の育成を図ることができた。		・学習方略の選択による学習の個性化を図るとともに指導の個別化の実現が課題となる。 ・個に応じたティーチングとコーチングとの使い分けや、ファシリテートする教員の能力の向上が課題となる。	・学園研究の新たなスタートとして、学園生一人ひとりの自立・自律した学びを目指し、新たな研究主題、研究組織等の体制をつくり、複数年の見直しをもった計画的な研究に取り組む。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にする心、自分を受け入れ、他者のやさしさを理解する心の育成		
取組	特別な支援を要する児童・生徒や不登校児童・生徒への対応(増加の傾向と多種多様な実態)		
成果		課題	改善策
・学園内の小・中間、小・小間での児童・生徒の具体的な交流が実施でき、活動を通して相手の心を考える力が向上し、学園生としての豊かな心の醸成ができた。		・不登校対策の一つとしても魅力ある学園の風土を醸成するために、学園生に取って魅力ある交流活動を学園生自らが主体的に考え実践できるようにCS委員、教員と協働していくこと。	・現在、実施している交流活動を見直し、ねらいを明らかにし、継承すべきものは今後も継続し、ねらいに沿った方法を考えて、新たな取組にチャレンジしていくこと。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	すすんで心と体の健康を大切にする態度の育成		
取組	各校の体力の実態を踏まえた体育授業の改善や具体的な取組の実践		
成果		課題	改善策
・3校ともに体力向上のために、全校児童・生徒での取組や学園生一人ひとりがめあてをもって具体的な取組を推進することで、一人ひとりの体力の向上が図られた。		・成果を上げることができた各校の取組は、今後も継続し、組織的に現状を分析、考察し、具体的な体育の授業改善、校内の取組、学園としての取組を考え実行していくこと。	・3校の実態について分析、考察し、学園として取り組めることを3校の担当教員を中心に考え、実践ができるように体制づくりを行う。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	地域の人財を活用した防災教育や授業づくり等、各校の特色ある教育活動の充実		
取組	学習ボランティアを有効活用した授業づくりや一貫した防災教育の実践		
成果		課題	改善策
・学園の特色である防災教育の具体的な授業が、更に発展し、展開することができた。 ・大きな成果としては、熟議を通し、学園生が身に付けた防災の力を汎用させたイベントの骨子構想ができたことである。		・三鷹中央学園として特色のある大きなイベントの開催に向けて、CS委員会が中心となり、保護者、地域の協働のもと計画的に取り組んでいけるようにすること。	・「三鷹中央学園防災フェスティバル」を3学期に開催するために、準備委員会を立ち上げ、CS委員、教員、学園生、地域、保護者が一体となって、協働し開催できるようにする。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	働きがいを見いだす本質的な業務の遂行		
取組	教員の心身の健康を優先した組織的な改善策の推進		
成果		課題	改善策
・最大の成果は、学園研究を推進する中で、学園の教員と一緒に協働研究・研修することで、教員一人ひとりが、学園生の姿の変容に喜びを感じ、日常の業務にやりがいを感じて取り組めたことである。		・働き方改革について、学園としてどのように取り組むべきなのかをCS委員会の熟議等を踏まえ、抜本的、具体的な改善策を講じて、教員の心身の健康の維持を図ること。	・業務内容の削減や効率化等、行政に対しての要望も含めCS委員会として具体的な改善策を明確に打ち出し、学校とCS委員が協働して、教員の働き方改革に正対する。

鷹南学園



令和6年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	・学園の教育活動をより充実させるため、学園の教員同士、教員とCS委員・地域が協働を図る。 ・学園の児童・生徒に多様な学びや経験の場をつくる。 ・たかみんネットの安定的で持続可能な活動を目指す。		
取組	・年度当初の学園研修、小・小の学年別会議、教員とCS委員の熟議、より多くの関係者が参加し親睦を深められる鷹南会を実施する。 ・第2部・3部及び地域の関連団体と連携し、児童・生徒が学びを充実させるとともに豊かな経験をすることができるようにする。 ・たかみんネットの活動を、「知る」から「つなげる、つながる」へと進める。		
成果		課題	改善策
・教職員とCS委員との熟議をはじめ、鷹南会や地域行事を共にする中で互いの連携が深まるとともに、教職員のCSの理解の深まりにもつながった。 ・教員が研修の一環として地域行事に関わることができた。		・令和6年度同様、すべての教職員がCS委員会及び地域とかわりをもてるようにする。 ・教職員がCS委員と協働する中で、更にCSへの理解を深める。	・多様なかわりかたの中から、それぞれの教職員の状況に応じたかわりをもてるようにする。 ・CS委員会及び地域と協働して行う学習活動を推進する。

大項目	Ⅰ コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	・児童・生徒双方の学びになるよう内容や質を重視した学園行事や学園交流を実施する。 ・学園として一体感をもって児童・生徒が交流を深められるようにする。		
取組	・鷹南学園合同行事(学園引き渡し訓練、学園集会、きょうだい学年交流、小6合唱交流(仮称)、児童・生徒会交流、小5中学校体験、あいさつ運動)及び地域行事の実施。小学校6年生における学園合同自然教室の実施に向け、1年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。 ・児童・生徒それぞれが成長する機会となるよう、学園行事・交流の年間計画の評価・改善を行う。		
成果		課題	改善策
・全学年が小・小交流を行なうことができた。そのための合同学年会を実施する等、協働しながら両校の児童の育成を図ることができた。 ・学園研究において3校の教員が連携し授業力向上に努めた。		・小・中の児童・生徒の交流のもち方について、子どもたちや学校の実態に合わせた充実したものを、無理なく行えるようにする。	・学園生が一体感をもてる交流の方法を検討し、実施する。 ・小・中一貫コーディネーターを中心に、児童・生徒も加わり、現在の鷹南学園の実態に合ったよりよい交流について考える。 ・3校の小・中一貫教育コーディネータが中心となって、児童・生徒の声を聞きながら計画を立案する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	・全ての児童・生徒に確かな学力を身に付けさせるため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ・全教員が当事者意識をもって参加する学園研究を実施する。		
取組	・各種調査結果から児童・生徒一人ひとりの課題を明らかにし、課題解決に向けた教員の指導の工夫と児童・生徒の資質・能力を高める。(学習用タブレット端末・地域未来塾・学習支援ボランティア・地域人財・地域資源の活用) ・3校の教員が日常的に授業を参観し合い授業改善に取り組み、持続可能な学園研究を実施する。一人ひとりの教員が自らの課題を明確にし、学んだことを授業改善にどう生かしているかを情報共有する機会を設ける。		
成果		課題	改善策
・小・中学校の教員が、授業を参観し合い授業改善に取り組むことができた。 ・一人ひとりの教員が自らの課題を明確にし、学んだこと情報共有する学園研究を行うことができた。		・小・中学校双方の実態に応じ、効果的な授業参観を継続して行う。 ・児童・生徒一人ひとりの学力を適切に把握し、確かな学力の定着を図る。	・学園研究において、小・中学校の教員が効果的な授業参観を継続できるよう、各校の実態に応じた実施方法の工夫を検討する。 ・自立的な学びに向け、更なる地域連携を図り、地域と連携した放課後・家庭学習の充実を推進する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	・児童・生徒会が主体となった活動から、全児童・生徒が主体となる活動に広げる。 ・いじめを生まない安心できる環境づくりをする。 ・児童・生徒会が主体性をもって関わるができる行事等を実施する。		
取組	・学園の児童・生徒全員が交流をもてる学園集会を実施するとともに、熟議の機会をつくる。 ・あいさつ運動やきょうだい学年交流等のお互いが心を通わせる活動を実施する。 ・地域と連携した行事等について、児童・生徒が主体となる方法を検討し実施する。		
成果		課題	改善策
・あいさつ運動等により、学園の児童・生徒が互いに心を通わせる活動を実施することができた。		・児童・生徒会が学園の代表として一層の一体感をもって、学園の交流行事等にかかわることができるようにする。	・小・中一貫コーディネーターを中心に、児童・生徒会も加わり、児童・生徒の声を聞きつつ、現在の鷹南学園の実態に合ったよりよい交流について考える。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	・生活習慣の向上を図るとともに、心身の健康を自己管理にできるようにする。 ・家庭や地域と連携し、休み時間や部活動、放課後の活動において運動に親しみ、運動をする習慣や意欲を高める。		
取組	・健康課題を把握し、心身の健康状態の変化について早期発見・早期対応する。教職員が児童・生徒のメンタルヘルスケアについて理解を深め、指導や対応の力を身に付けられるようにする。 ・心身の健全な発達や健康の保持増進に向け、ねらいを明確にした学校行事を行う。(体育祭・運動会・スポーツフェスティバル) ・CSや地域の関係団体と連携し、運動に親しむ機会をつくる。		
成果		課題	改善策
・心身の健全な発達や健康の保持増進に向け、ねらいを明確にした学校行事を行い、運動に親しむことができた。 ・CS委員や地域の関係団体と連携し、運動に親しむ機会をつくることができた。		・引き続き、今年度同様の成果が出るよう取組を推進する。	・CS委員や地域の関係団体と更に連携を図りながら、学校行事をはじめ、放課後等も活用し、継続して児童・生徒が安全に主体的に運動に親しむ機会を設定する。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・第2部・3部と連携して地域の協力を得たり、学園版カリキュラムを活用し地域人財を活用したりしながら教育活動を充実をさせる。 ・自立した学習者となるべく自己調整力を身に付けさせる。		
取組	・教職員及びCS委員が学園版カリキュラムへの理解を深め有効活用できるよう、研修を実施する。 ・長期休業中等において小学校は4～10時間、中学校は6～10時間学校外での探究的な学習活動を地域との連携も行いながら効果的に進め、他者と協働しながら主体的に課題解決する力を育てる。 ・CS委員会及び地域団体と育成する力を共有し、ねらいに迫った取組みをする。そのためにキャリア・パスポートを効果的に活用する。		
成果		課題	改善策
・生活科及び総合的な学習の時間を中心とし、探究的な学習活動を地域との連携も行いながら効果的に進めることができた。		・教職員及びCS委員が学園版カリキュラムへの理解を深め、効果的な連携により教育活動の充実を図る。	・教職員とSC推進員及びCS委員とが、学園版カリキュラムを共有し、教育活動の充実に向けた検討をする。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・Teamsの効果的活用について研究を重ね、教職員の職務の負担軽減に努めるとともに、学校支援ボランティア等や、地域人財の活躍により学校の負担軽減を目指す。 ・指導の重点化、行事等の統合化、同僚性の発揮、外部人材の活用、校務支援システムの効果的活用や校務の精選により、環境を整える。		
取組	・働き方改革に向けた好事例を学園で共有する。 ・Teamsを効果的に活用し情報共有したり、共同作業したりする。 ・学園研究においてオンラインやオンデマンドを活用し、時間や場所を選んで参加できるようにする。 ・学校支援ボランティアの活用場面等について学園で共有する。 ・年度当初に年間の地域行事を一覧にして示し、見通しをもって地域行事に参加できるようにする。		
成果		課題	改善策
・Teamsの効果的活用、学校支援ボランティア等や、地域の方の活躍により教職員の職務の負担軽減を実現した。 ・各校の実態に応じた働き方改革が推進されている。		・教職員が本来業務に専念できるよう、一層の負担軽減を図る。	・指導の重点化や行事等の統合化、同僚性の発揮、地域・外部の方の活躍、校務支援システムの効果的活用など、学校の実態に応じた校務の精選に取り組む。

東三鷹学園



令和6年度 東三鷹学園の評価・検証 結果報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	1 東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の充実 2 CS委員会や学園のPR活動の推進 3 サポート隊の充実、地域人財の活用(教育ボランティア) 4 スクール・コミュニティの創造に係る取組の充実		
取組	1 学園スタンダードの役割を整理し運用の仕方を改めていく。 2 学園スタンダードを基本として、自分のこととしてキャリアパスポートに取り組めるようにするため、教員と意見交換しながら進め方を整理していく。 3 学習ボランティア等の情報を人材バンクとして整理しながら、教員からサポート隊への依頼を円滑にできるようにする。 4 放課後子どもクラブや学童保育所等と連携し、円滑に運営していけるようにしていく。		
成果		課題	改善策
・各校の様々な学習場面でサポート隊、地域の人財の協力を得て、活動を充実させることができた。 ・各校の状況に応じ、放課後の学びや遊びの居場所づくりを推進できた。		・教員と保護者・地域住民の意見交換を通して、学園スタンダードを見直し、児童・生徒一人一人がキャリアパスポートに取り組めるようにする。 ・学習ボランティア募集システムの円滑な運用によって学習支援を充実させる。	・CS委員会評価部と教員との意見交換やCS委員と教員の熟議を通して、学園スタンダードの内容や活用の仕方を整理する。 ・サポート隊事務局の協力を得て、学習支援の機会を増やし、教育活動を充実させる。

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	1 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2 相互乗り入れ授業の充実 3 児童・生徒の交流活動の充実		
取組	1 学園の児童・生徒の実態に基づき、学力向上に必要な指導のポイントを明確にして、学園・校内の研究授業を実施していく。 2 計画の変更等を確実に伝達できる仕組みを工夫し実施していく。 3-1 生徒会・代表委員会の年間計画に話し合いの時期や内容を具体的に位置付け計画的に実施していく。 3-2 学園スタンダードにおける児童・生徒の行動指針を生徒会・代表委員会を中心に話し合い、より実践可能なものにしていく。		
成果		課題	改善策
・三鷹市研究協力校として3校が学園研究主題に基づいた研究授業を実施し、学習過程におけるめあてや振り返り等の指導のポイントを押さえた指導を実践できるようになった。		・研究協力校2年目を迎え、学園の小・中一貫カリキュラムに基づいて、各教科等においてめあてや振り返り等の指導のポイントを押さえた指導を確実に実践していけるようにする。	・研究協力校1年次の研究成果を活かし、各校の共通課題を明確にして、授業改善を図り、その研究成果を発表する。 ・学園研究の成果を学園の小・中一貫カリキュラムに反映させる。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	1 基礎学力の向上 2 教員の指導力の向上 3 家庭学習の充実 4 みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等		
取組	1-1 JMコンの役割を再度確認し、実施の方法と内容を実態に即したものにしていく。 1-2 サポート隊の具体的な活用場面を教員に示し活用させていく。 1-3 学園スタンダードの役割とキャリアパスポートの運用の見直しと連動して、TEHの取組として児童・生徒の意識向上を図っていくこと。 2 市学力調査を活用し児童・生徒の実態に応じて、各自に目標をもたせ取り組ませていく。 3 家庭学習の進め方を明確にするため家庭学習ガイドを示していく。 4 サポート隊など学習ボランティアを人材バンクとして整理し活用する。		
成果		課題	改善策
・学園研究・校内研究を通して、各校の課題に応じた手立てを実施し授業を改善することができた。		・学園研究・校内研究を通して指導力の向上を図るとともに、補充学習や家庭学習を充実させ、児童・生徒の基礎学力の向上を図る。	・児童・生徒の主体的な学習を推進するために、研究主題に基づいた授業実践を日常的に実施する。 ・児童・生徒のニーズに応じた補充学習や家庭学習を実施し確実な定着を図る。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	1 人権と言葉を大切にしたい指導の推進 2 デジタル・シティズンシップ教育の推進		
取組	1-1 やさしい言葉掛けや立場の理解に基づいた人とのかかわり方を児童・生徒が自ら考え取り組めるよう、学校・地域・家庭で連携して充実させていく。 1-2 あいさつ運動を中心とした取組を児童・生徒だけでなく保護者・地域とともに実行していく。 1-3 学園スタンダードを目安としてキャリアパスポートの取組に効果的に活用できるようにしていく。 2 発達段階に応じた活用の仕方を児童・生徒が自ら考え、明確にして取り組ませていく。		
成果		課題	改善策
・児童会・生徒会が主体となり、地域住民の協力も得て、あいさつ運動を継続し、効果が出てきている。 ・学園の教員が主体となった学園デジタル・シティズンシップ熟議を実施できた。		・あいさつ運動に加え、場や状況に応じた言葉遣いをできるようにしていく。 ・全ての児童・生徒が日常生活のルールとしてデジタル機器の望ましい利活用を自ら考え実践していく。	・児童会・生徒会が中心となり、場や状況に応じた言葉遣いや望ましいデジタル機器の利活用を考える機会を継続して設定し、児童・生徒一人ひとりが自ら考えたことを行動して実践できるように指導していく。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	1 体力の向上 2 地域貢献する力の育成 3 健康にかかわる食育の実践		
取組	1 体力調査の分析結果を生かし、各校で体力の向上が必要な要素に重点を置き、計画的に日常的に取り組んでいく。 2 生徒会・代表委員会の議題として「東三鷹祭」の計画を位置付け、体制を整え計画的に実施していく。 3 食育としての取組を計画に位置付け、毎年、工夫しながら実施していく。		
成果		課題	改善策
・国・都の体力運動能力・生活習慣調査等の分析・考察に基づいて、各校での体育の授業や体力づくりの取組を計画的に実施できた。		・体力運動能力・生活習慣調査の分析・考察に基づいた取組を継続し体力の向上を図る。 ・東三鷹祭の運営をより児童・生徒主体の活動にし地域貢献に繋げる。 ・給食を通して食育の充実を図る。	・体力運動協力・生活習慣調査を活かし、怪我の防止等の知識や技能の習得を重視した取組を推進する。 ・児童会・生徒会の連携により、児童・生徒主体の活動にし地域への貢献を図る機会を創出する。 ・児童・生徒が地場産の野菜を活用した給食献立を考える機会を設ける。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	1 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 2 オリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等		
取組	1 各校の年間指導計画に位置付け、キャリア・アントレプレナーシップ教育の活動体験をキャリアパスポートの取組に活かし、児童・生徒が自らの夢を描きながら実現していけるようにしていく。 2 「学校レガシー2020」の趣旨に基づいて、福祉やボランティア等に関する体験的な活動を工夫していく。		
成果		課題	改善策
・各校で発達段階に応じた体験活動を意図的に計画的に実施することができた。 ・体験活動の実施にあたっては、地域住民との協働によって活動を充実させることができた。		・各校の活動をキャリアパスポートと関連付けて実施し児童・生徒の夢の実現に繋げる。 ・福祉やボランティア等に関する体験的な活動を工夫し年間指導計画に位置付け充実していく。	・各校の活動で確実な振り返りを実施し、児童・生徒にとっての活動の価値を明確にしてキャリアパスポートに反映させる。 ・各校の様々な活動を年間指導計画に位置付け目標を明確にして実施していく。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	1 教職員のライフ・ワークバランスの推進 2 地域行事等への参加		
取組	1 ノー残業デーの実施率や年次休暇の取得率を高めるとともに、校務事務の効率化、会議時間の縮減等の工夫を引き続き行っていく。 2 町会・青少年対策委員会・交通安全対策委員会・地区住民協議会等との連絡会で相互の連絡を密にし、児童・生徒およびその保護者への広報に努める。また、生徒会・代表委員会の議題として「東三鷹祭」の計画を位置付け、体制を整え計画的に実施していく。		
成果		課題	改善策
・校務分掌の見直しや会議の時間短縮を工夫することで、各校ともにノー残業デーの実施率が高くなってきている。		・各校の状況に応じて校務の運用の仕方を工夫するなどして、更なる業務の効率化と負担感の軽減に努める。 ・地域行事への参加等の機会を増やし地域住民とのコミュニケーションを豊かにする。	・各校の校務分掌、学年・学級の事務、部活動の分担に係る業務に軽重を付けるなどして効率的な運用を図る。 ・教職員が万遍なく地域行事に参加できるよう調整し地域との交流を活発化する。

おおさわ学園



令和6年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営		
重点目標	・昨年度発足の「おおさぼ」の認知度を上げる。 ・学園やCS委員会のHPの更新率を上げ、CS委員会の活動内容の浸透を図る。		
取組	・まずは、教員の理解度を上げるとともに、「おおさぼ」に関する実践の内容を、教員自身が児童・保護者に対して、随時発信していくようにしていく。 ・学園HPの担当及び役割を明確にし、更新率を上げるとともに、学校だより等も活用して情報発信の機会を増やしていく。		
成果		課題	改善策
・「おおさぼ」の活動が活発になり、様々な教育活動で大きな成果をあげることができた。 ・地域クラブ型部活動である野球クラブや天文クラブ、おおさわジュニアバンドが発足し、充実した活動ができた。		・「おおさぼ」の実践の認知度が、まだ低いと思われる。 ・「おおさぼ」の活動を支える人材が不足している。	・今後もCSだよりやホームページで「おおさぼ」に関する情報を発信していく。 ・CS委員だけでなく保護者・地域に呼びかけ、ともに協働していく「おおさぼ」を創造していく。

大項目	I コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進		
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動		
重点目標	・地域人材・施設等を活用した授業の実践事例を増やしていく。 ・昨年度の学園研究の研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現」の検証をしていく。		
取組	・今後も、地域人材・施設の活用の実践を計画的に積み重ね、計画に基づいて、授業を通じた実践事例をさらに増やしていく。 ・研究の成果を、児童・生徒の学びに視点を当てて検証して、その質をさらに高めていく。		
成果		課題	改善策
・大きな成果の一つとしては、学園研究において、研究授業を行うことにより、小・中の教員が交流し、互いに学び合うことができたことである。		・児童・生徒一人ひとりの学習定着度・学力の伸びに着目した学力向上 ・教員一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを実現を目指した更なる授業改善 ・全教職員によるSTEAM教育の推進 ・一昨年度の学園研究を踏まえた地域資源の更なる活用	・学園研究の重点課題を学力向上とし、9年間を通して系統性・連続性に着目し、確かな基礎学力を定着できるように研究を推進する。 ・学園研究の取組と合わせて、地域資源を活用した主体的・対話的で深い学びの授業改善やSTEAM教育の研究の推進を図る。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	1 (知)確かな学力		
重点目標	・学習用タブレット端末の正しい使用及び効果的な活用をしていく。 ・家庭の学習の充実を図るために、「個別最適な家庭学習」を進めていく。		
取組	・学習用タブレット端末の活用について年度初めにオリエンテーションを行い、発達の段階に応じた使用方法やアプリの活用について、理解させてから使用させたい。 ・「個別最適な家庭学習」をするためには、学習用タブレット端末の様々な機能・アプリを活用することが有効である。学習用タブレット端末を効果的に活用し、主体的に家庭でも学習できるようにしていく。		
成果		課題	改善策
・教員は、学習用タブレット端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」や「探究的な学び」、「協働的な学び」を取り入れた授業改善に取り組むことができた。 ・「おおさわ学園」の特色である地域人財・施設・物を全教科等で活用する研究を行ってきた成果を生かした学習展開をすることによって、より実感を伴った理解や思考力・判断力・表現力の育成につなげることができた。		・学習用タブレット端末にあるeライブラリの「自ら選んで学習する」という機能を児童・生徒が活用できるようにすること。 ・学習用タブレット端末等の有効な活用方法を共有し、全ての教員が児童・生徒一人ひとりに応じた使用ができるようにすること。	・学習データを活用しながら自分で学びを高める、深めることができるように教員内の研修、児童・生徒向けのオリエンテーションを年度の早い段階で実施する。 ・東京ベーシックドリル、eライブラリを授業、補充学習、家庭学習、みたか地域未来塾などで、繰り返し取り組むことができるよう工夫する。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	2 (徳)豊かな人間性		
重点目標	・地域人財、地域資源の有効な活用のために、授業への準備、当日の動き、振り返り、次回へのつなぎ等を「継続」していくためのシステム化の構築を図る。 ・児童・生徒の「自己有用感」(自分が必要とされている、役に立っているという感覚)や「自己肯定感」(自分が好きだ、自分にはいいところがあるという感覚)の向上を図る。		
取組	・地域人財、地域資源を生かす授業が担当者が変わっても継続していけるように一連の流れをシステム化し、誰でも授業ができるようにしていく。 ・「自己有用感」「自己肯定感」を育むために、周りの大人による価値付けや、「場の設定(機会)」を今後も増やしていく。		
成果		課題	改善策
・学園版の小・中一貫カリキュラムに地域人財、地域資源を活用した教育活動を位置付け、計画的に実施することができた。 ・教育活動等を通して児童・生徒の活躍や協働する場を増やすことで「自己肯定感」「自己有用感」が高まっている。		・地域人財、地域資源の有効な活用は進んでいるが準備等に時間を要する。 ・「自己肯定感」「自己有用感」は高まってきているが、その反面で学習に自信がもてない児童・生徒や不登校傾向の児童・生徒もいる。	・学園版の小・中一貫カリキュラムの改訂を行い地域人財、地域資源の有効な活用のシステム化や効率化を図る。 ・QUや児童・生徒アンケート等から児童・生徒の実態を把握するとともに、学園での児童・生徒等の交流や地域連携を意図的・計画的に行う。

大項目	Ⅱ 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実		
検証項目	3 (体)健康・体力		
重点目標	・児童・生徒の健康増進、体力向上のために、熱中症防止対策を施しながら、屋外での活動を工夫する。 ・基本的な生活習慣の定着に向けて、学校だけでなく、家庭への啓発も図る。		
取組	・体育館開放や涼しい時間帯での運動、活動の精選(体育科や保健体育科の年間指導計画の見直しも)が必要になってくる。 ・保護者会、ホームページ、学校だより等、様々な方法で基本的な生活習慣についての学校での様子(よさも含めて)を伝え、家庭への啓発も行う。		
成果		課題	改善策
・学校としてできる熱中症対策は、積極的に行い大きな事故を防止することができた。 ・プールサイドの日よけ、散水については、他校へも情報提供を行い、市内の小・中学校の熱中症対策にも貢献できた。		・睡眠時間の確保や朝食の摂取といった生活習慣の改善を必要とする生徒が多々いる。 ・日焼け止めを塗布することで熱中症対策につながるものが浸透しておらず、日焼け止めを使用する習慣が身についていない。	・生活習慣の改善については、引き続き学園便り、学校便り、保健便り等で啓発していく。 ・日焼け止めについては、引き続き設置し、全校朝礼での呼びかけや養護教諭・保健体育科教諭に授業等で指導する。

大項目	Ⅲ 特色ある教育活動(その他)		
検証項目	1 特色ある教育活動		
重点目標	・「起業家教育」のねらい、定義、教科等への位置付けを改めて確認する。 ・9年間を見通して、小・中の教員の連携、計画の関連性・系統性を追究する。		
取組	・キャリア・アントレプレナーシップについて学園研の中で取り上げ、皆で考えを共通理解したり、優れた実践を紹介したりできるようにする。 ・小・中のキャリア教育担当が中核となり、キャリア・アントレプレナーシップ教育の相互授業観察、計画の見直し等を行い、実効性のあるものに変えていく。		
成果		課題	改善策
・キャリア・アントレプレナーシップ教育のねらいを明確にし、中学校の職場訪問等を通じて職業観や起業意識を高めることができた。 ・小学校では、地域資源等を有効に活用して主体的・探究的な学びを深めることができた。		・コロナ禍の影響による様々な体験活動の不足 ・教員のキャリア・アントレプレナーシップ教育に関する十分な理解及び経験の不足	・学園版の小・中一貫カリキュラムを柔軟に見直し、体験活動や外部人材等を積極的に活用した、実効性のある内容の実践を積み重ねていく。 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育の担当教員が中心となって、優れた実践や新たな取組等を小・中学校で共有していく。

大項目	Ⅳ 学校教育の質の維持向上を目指した教員の働き方改革		
検証項目	1 働き方改革		
重点目標	・ICT機器の活用を事務作業の効率化につなげ、超過勤務時間の削減を達成する。 ・退勤時間を過ぎての会議等をなくすなど、勤務時間の遵守を徹底し、教職員の意識を高めていく。		
取組	・ICT支援員やGIGAスクール推進委員を通じて、ICT機器の活用に関する研修会を実施したり、お知らせを配布し、すべての教職員が活用できるように進めていく。 ・2週間および月ごとのタイムスケジュールを、週案等で作成させて、教職員のタイムマネジメントの意識向上を図るとともに、月ごとの超過勤務状況を校支援を利用して、教職員一人一人に周知する。		
成果		課題	改善策
・ICTを活用した校務の効率化、諸会議のペーパーレス化、副校長業務支援員やエデュケーション・アシスタント、SSSなどの支援員の有効な活用等により、業務改善が着実に進んでいる。		・教員のタイムマネジメントの意識向上 ・管理職の業務の効率化	・自己申告面談等を活用して、教員各自が学期・月・週単位のタイムスケジュールを作成・実行する中で、その成果を皆で共有し、更なる改善につなげていく。 ・管理職の業務、いわゆる「すき間業務」の可視化と改善を図っていく。